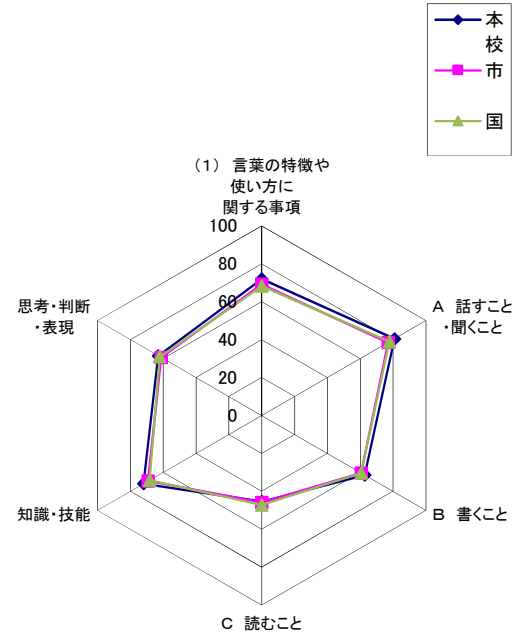


宇都宮市立雀宮東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.0	69.2	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	80.9	77.0	77.8
	B 書くこと	62.8	60.7	60.7
	C 読むこと	45.4	45.8	47.2
	知識・技能	72.0	69.2	68.3
観点	思考・判断・表現	63.0	61.2	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

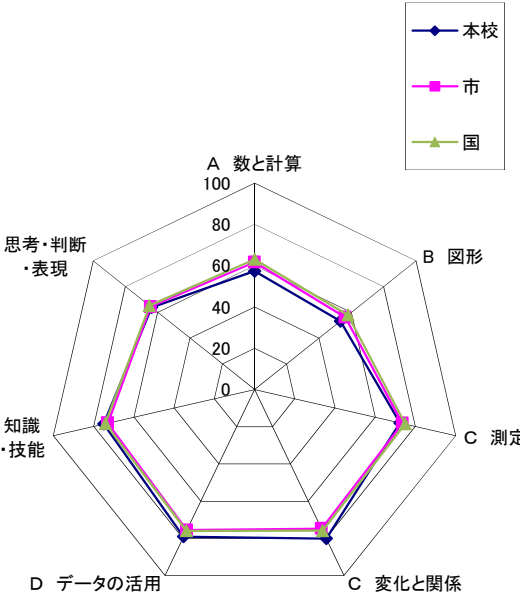
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使い方にに関する事項	○平均正答率は, 市や全国より高い。 ○「漢字を文の中で正しく使うことができるか(ころがっているを漢字で書く)」を問う問題では, 全国 の正答率より13. 2ポイント高い。 ○「文中における修飾と被修飾との関係をとらえる」 問いでは, 全国の正答率より, 13. 8ポイント高い。 ●「漢字を文の中で正しく使うことができるか(つか さねを漢字で書く)」を問う問題では, 全国の正答率 より9. 7ポイント低く, 課題が見られる。	○送りがなを正しく書くことができるようになっている。これ からも, 漢字練習だけでなく, 作文を書くことにより, 正しい 送り仮名の使い方を身に付けさせたい。 ○文中における修飾と被修飾の関係を正しく理解すること ができる。これからも, 授業で文を詳しく書く学習をさらに 充実させていきたい。 ●同じ読みの漢字を正しく使い分けことが苦手な傾向が みられるので, 部首を考えて漢字を書く学習や, 文章の意 味を捉えながら漢字を書く練習を取り入れていきたい。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は, 市や全国より高い。 ○「資料を使った理由の説明として適切なものを選 択する」問いでは, 全国の正答率より3. 8ポイント高 い。 ○【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で話した構成 の説明として適切なものを選択する」問いでは, 全国 の正答率より, 3. 4ポイント高い。	○資料を用いた目的を正しく理解することができる。これ からも, 資料から読み取ったことを自分の言葉でまとめる 学習を積み重ねていきたい。 ○目的に応じて話の内容が的確に伝わるようにスピーチ の構成を考えることができる。国語の授業や日記指導など で, 段落構成を意識して書く練習の積み重ねが要因と考え られる。これからも, 聞き手を意識しながら, 分かりやすい 文章構成ができるよう指導していきたい。
B 書くこと	○平均正答率は, 市や全国より高い。 ○【「文章の下書き」部分を【西田さんの話】を用いて 詳しく書き直す」問いでは, 全国の正答率より9. 4ポ イント高い。 ●【「文章の下書き」の構成についての説明として適 切なものを選択する」問いでは, 全国の正答率より 5. 2ポイント低く, 課題が見られる。	○目的や意図に応じて, 理由を明確にしなが, 自分の考 えが伝わるように書くことができる。国語の「書く」領域で, 反対意見を予想しながら自分の主張をする練習に取り組 んだ成果が現れたと考えられる。予想される反対意見へ の対応策を明確にし, 自分の主張が相手に納得してもら えるものとなるような練習を, さらに取り入れていきたい。 ●文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られ る。「話す・聞く」領域では, 段落構成を正しくとらえることが できている。この力を「書く」領域につなげていきたい。
C 読むこと	●平均正答率は, 市とほぼ同じで全国よりやや低 い。 ●【「資料」を読み, 面ファスナーが, 国際宇宙ステ ーションの中でどのように使われているのかをまとめて 書く」問いでは, 全国の正答率より4. 2ポイント低 い。 ●【「資料」の文章が, 何について, どのように書かれ ているかの説明として正しいものを選択する」問いで は, 全国の正答率より1. 0ポイント低い。	●「読むこと」に関する問題が3問とも全国の正答率を下 回る結果となった。特に, 「目的を意識して, 中心となる語 や文を見つけて要約する力」が不十分である。指示語やつ なぎ言葉に着目しながら, 説明文の段落構成を読み取る 学習に取り組んでいきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.4	61.7	63.1
	B 図形	53.2	56.2	57.9
	C 測定	72.3	73.5	74.8
	C 変化と関係	80.1	74.8	75.9
	D データの活用	79.1	75.6	76.0
観点	知識・技能	74.9	72.9	74.1
	思考・判断・表現	63.8	64.4	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は、市や全国より低い。 ●「余りのある除法の商とあまりを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていく時に必要な箱の数」を問う問題では、全国の前答率より8.5ポイント低い。 ●「30mを1としたときに、12mが0.4にあたるわけを書く」問では、全国の前答率より4.7ポイント低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ●日常生活の場面に即して判断する力が不十分であるため、基礎となる計算を使った文章問題に多く取り組ませていきたい。その際、自分の身近な場面をイメージしながら問題の場面を考えていくようにさせたい。 ●基準量を1と見た時に比較量が示された小数にあたる理由を記述すること、「0.1にあたる長さが0.3mである」ことの理解が不十分であったと考えられる。基準量・比較量の説明の仕方を筋道を立てて考える指導の充実を図ってきたい。
B 図形	●平均正答率は、市や全国より低い。 ●「直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ」問では、全国の前答率より8.7ポイント低い。 ●「直角三角形の面積を求める」問では、全国の前答率より4.0ポイント低く、課題が見られる。	●複数の図形を組み合わせた面積について、量の保存性や量の加法性を基にして捉え、比べることのできる力が不十分であった。一つの図形を様々な見方で捉えることで、面積の求め方が変わることに着目する学習を取り入れていきたい。 ●面積の公式(底辺×高さ÷2)を正しく立式することができるようになるとともに、計算を正確にできるような指導を繰り返し行っていくようにする。
C 測定	●平均正答率は、市よりやや低く全国より低い。 ○「午後1時35分から50分後の時刻」を問う問題では、全国の前答率より6.5ポイント高い。 ●「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く」問では、全国の前答率より5.1ポイント低く課題が見られる。	○条件に合う時刻を求める力が身に付いていると考えられる。これからも時刻と時間を使った文章問題に多く取り組ませることにより、時間の感覚をさらに身に付けさせたい。 ●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する力が不十分であった。答えを導くまでの道筋を順序よく説明する学習の充実を図ってきたい。
C 変化と関係	○平均正答率は、市や全国より高い。 ○「500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000m歩くのにかかる時間」を問う問題では、全国の前答率より6.9ポイント高い。 ●「二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ」問では、全国の前答率より4.7ポイント低い。	○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考える問では、二つの数量関係を正しく理解することができていた。これからも文章から分かることを工夫してノートに記録していく学習を充実させていきたい。 ●式の意味を考える学習場面を設定し、児童の実態に応じて多くの問題に取り組ませたい。
D データの活用	○平均正答率は、市や全国より高い。 ○「6年生の本の貸し出し冊数を棒グラフから読み取る」問では、前答率が100%であり、全国の前答率より4.2ポイント高い。 ●「帯グラフから割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く」問では、全国の前答率より0.9ポイント低い。	○棒グラフから分かることを読み取る基本的な力が十分に身に付いている。これからもいろいろな種類のグラフの読み取り問題に取り組ませたい。 ●割合の違いが一番大きい項目を選び出す、項目間の関係に関する問の前答率が低く、問題の条件にあった「理由」「学年」を組み合わせて考える力が不十分であった。グラフを多面的に見る学習を取り入れていきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「5年生までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っている。」と回答した児童の割合は(79.2%)、全国の平均と比べて12ポイント上回った。各教科の単元のまとめとして「新聞作り」を行ったりすることにより、自分の思いを工夫してまとめる活動を好む児童が多い。これからも学んだことを生活につなげていくことができるような時間の設定に努めていきたい。

○「5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていた。」と回答した児童の割合は(91.7%)、全国の平均と比べて10ポイント上回った。児童の実態に応じた授業の組み立ての工夫によるものと考えられるが、特に導入を工夫し、児童の興味・関心を高めてから課題に取り組むことにより、主体的に学ぶことができるようにしていきたい。また「振り返り」の時間を有効活用することにより、学びを他教科や日常生活に広げられるようにしていきたい。

○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」と回答した児童の割合は(83.4%)、全国の平均と比べて5ポイント上回った。普段の授業で、課題解決にあてる時間を十分確保することで、「分かった」ことへの自信につながっている。しかし、できなかった問題をそのままにしてしまう場面も見られるので、間違えた問題に対しても粘り強く取り組む意欲を高める指導の工夫を図りたい。

○「国語の勉強が好きである。」と回答した児童の割合は(70.9%)、全国の平均と比べて12ポイント上回った。また、「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている。」と回答した児童の割合は(93.8%)、全国の平均と比べて10ポイント上回った。教科書に出てくる物語文・説明文の読み取り学習でも、言葉から想像を膨らませながら考えることができ、また、図書室で読書をするを好む児童がとても多い。これからも言葉を大切にしながら、国語の楽しさを味わうことのできる授業を行いたい。

●「算数の授業で問題の解き方や考え方を分かるようにノートに書いている」と回答した児童の割合は(87.5%)、全国の平均と比べて4ポイント下回った。算数の授業で、自力解決の時間を十分確保するようにしているが、自分の考えを書くことを苦手としている児童もいる。既習事項を生かしながら問題を解決できないかを、図や絵を用いながら工夫して考えるように助言をしていきたい。また、文章問題を苦手としている児童も見られるので、文章から分かる情報をノートに書きだしながら立式していく学習を継続して行いたい。

●「英語の授業が好きである。」と回答した児童の割合は(64.6%)、全国の平均と比べて3ポイント下回った。高学年になり、今までに聞いたことのない単語が多く出てきたことが要因と考えられる。英語でコミュニケーションすることを好む児童は多くいるので、ジェスチャーや豊かな表情で、楽しく英語を学ぶことができるようにしていきたい。

宇都宮市立〇〇〇小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・論理的思考力の向上を目指し、確かな学びにつながる授業の工夫 ～ICT機器の効果的な活用を目指して～	・アンプラグドプログラミング学習を積極的に取り入れ、論理的な思考力を育成する。 ・プログラミング学習を通して、目的に応じて見通しを立て、試行錯誤しながら課題解決に取り組めるような授業づくりをする。 ・ICT機器を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。	・「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の問いには、県や市の肯定回答率より高い。 ・「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の問いには、県や市の肯定回答率より高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の「読むこと」に関する問いに課題が見られる。特に、文章を要約する力が不十分である。 ・算数の「数と計算」や「図形」に関する問いに課題が見られる。	・説明文の読み取りの充実を図る。 ・基礎的な計算力の定着を図る。 ・図形の構成要素を理解し、面積を求める力をつける。	・指示語やつなぎ言葉に着目しながら、説明文の段落構成を読み取る学習や文章を要約する学習に力を入れる。 ・朝の学習や授業で計算問題を繰り返し行う。 ・面積の公式を正しく立式することができるようにするとともに、正確に計算できるよう継続して指導する。